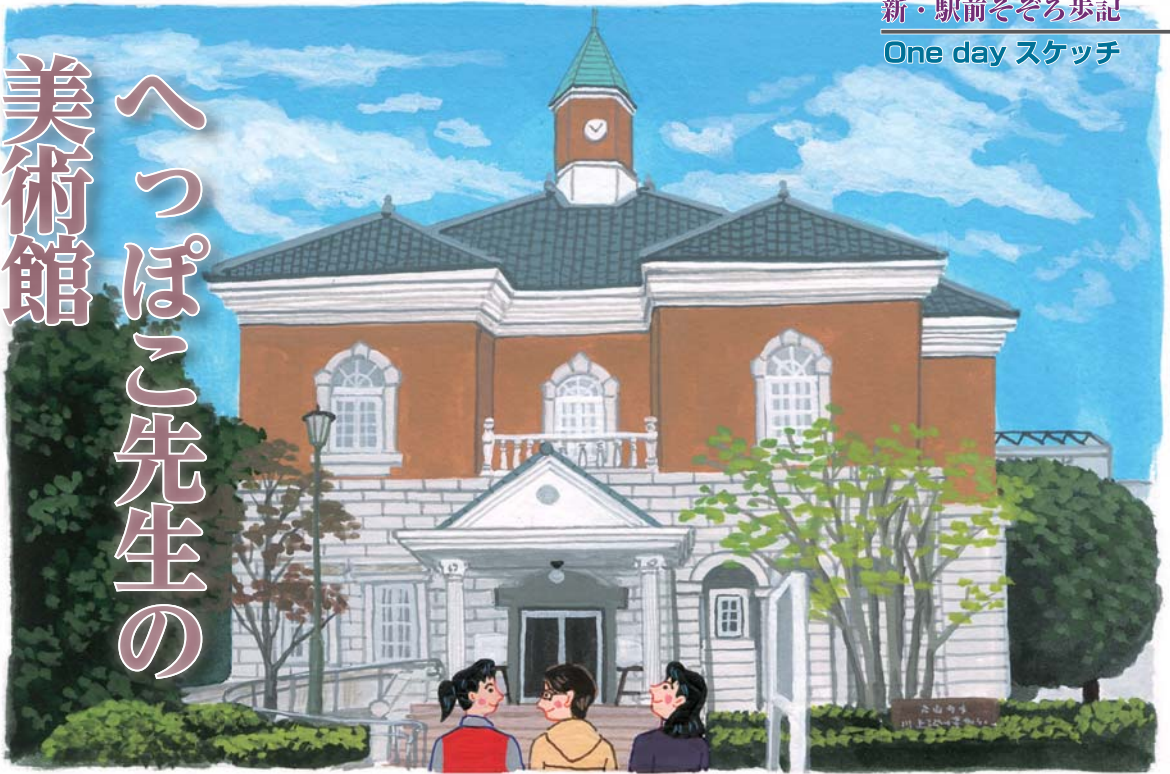


へっぴょこ先生の
美術館
そして伝統工芸の職人技



こんにちは、あずまです。今月は、栃木県の新鹿沼駅周辺を散策してきました。まずは駅からタクシーで「鹿沼市立川上澄生美術館」へ。「木版画の詩人」とも呼ばれた川上澄生の作品「日本越後国柏崎黒船館」を反映させた明治洋館風の外観です。(MAPの①)

今回の登場人物



1929(昭和4)年4月1日に開業した東武日光線の駅。北千住から特急「スーパーシア」で1時間12分。日光御幣使街道の宿場町としても栄えた、鹿沼市の観光の玄関口になっています。

新鹿沼 (しんかぬま)

東武日光線新鹿沼駅は、古くから栄えた鹿沼の中心街にあります。江戸時代、日光に東照宮が造営されたことから、鹿沼は日光西街道・例幣使街道の宿場町・市場町として賑わい、東照宮造営にあたった名工たちの技を伝承した彫刻屋台や組子細工などの工芸が盛んになり、町人文化の繁栄がみられました。そんな伝統文化を色濃く残す町並には見どころがいっぱい。新鹿沼の町をそぞろ歩けば、新しい発見もあります。



戦国時代の1534年、鹿沼城の鎮守として創建された「今宮神社」です。毎年10月に行われる絢爛豪華な彫刻屋台が繰り出し、勇壮なお囃子の披露(ぶっつけ)が見ものの「鹿沼ぶっつけ秋祭り」が有名です。(MAPの㉔)



川上澄生美術館の隣にある「鹿沼市文化活動交流館」です。絵画や彫刻などの多目的創作工房やギャラリーのほか、考古資料や民具などを展示する郷土資料展示室があり、さらに彫刻屋台が2台展示されていましたよ。(MAPの㉕)



「屋台のまち中央公園」の観光物産館です。桐やヒノキを使った木工品、鹿沼こんにやくや和菓子など物産品の展示販売コーナーがあるほか、観光案内や軽飲食コーナーもあり、観光情報ゼットやお土産選びに便利ですよ。(MAPの㉖)



ここは「屋台のまち中央公園」。屋台展示館、掬翠園という日本庭園、そして観光物産館からなっています。これは屋台展示館3台の彫刻屋台を間近で鑑賞できるほか、お祭りの映像を大画面で見られるコーナーもあります。(MAPの㉗)

江戸時代からいまに続く祭礼絵巻なのです。

ここから鹿沼の街中へ。まずは鹿沼宿の氏神さま——今宮神社にご挨拶。この神社こそ、国の重要無形民俗文化財となっている「鹿沼ぶっつけ秋祭り」のメインステージです。豪華絢爛な彫刻屋台が境内に繰り込んで、それぞれのお囃子を奉納

美術館の隣にはどっしりとした石造りの鹿沼市文化活動交流館。新築の建物ですが、昔の工場に使われていた大谷石に似た鹿沼産の深岩石を再利用しています。敷地の一角には、その当時のままの石造りの蔵が1棟だけ保存されています。鹿沼には深岩石造りの建物という文化もあるのです。

また同館では、クリスマスの世界を新進気鋭の版画家たちが競う「リトル・クリスマス展」を開催(12/23まで)。こちらでも人気を集めています。

まず鹿沼の市街地を南北に流れる黒川の畔に向かいます。ここに建つ時計台付きの洋館は、鹿沼市立川上澄生美術館。大正から昭和にかけて活躍した栃木県ゆかりの木版画家・川上澄生の作品約2000点を収蔵。季節ごとにさまざまなテーマで企画展を催しています。自称「へっっぽこ先生」で知られた川上澄生の作品は詩的で、素朴で温かく、ポップでユーモアがあつて、心惹かれます。

新鹿沼駅のホームに降り立ってまずびつくり。改札口に出迎えるのは、鹿沼産のスキで削り出した松尾芭蕉像。芭蕉は奥の細道へ旅立った3日目に鹿沼に宿泊しているのです。さらに駅前広場に出ると、そこには銀色に光る岡本太郎作のパブリックアート「夢の樹」。新鹿沼駅のシンボルです。

川上澄生美術館と深岩石造りの蔵



大谷石と同類の深岩石造りの素敵なお店を発見! 手づくりショコラ工房「ACARIE CHOCOLAT」です。お土産に、4種類8個のクリスマスショコラが入った「大谷の石畳」(1150円)を購入。甘さ控えて、上品な味わいでしたよ。(MAPの④)



ランチに入った「Canal de Panama」というカフェ。黄色いバス停状のものと、白いのれんが目印。パナマカレーや日替わりプレートなど、洋食風のランチは3種類。手作りデザートの盛り合わせに、ドリンク付きでした! (MAPの⑤)



最後に訪れた「木のふるさと伝統工芸館」。彫刻屋台に見られる木材加工の素晴らしい職人技を今に伝えています。鹿沼組子を使った見事な工芸品の数々には、本当に感動させられました。組子体験もできそうですよ。(MAPの⑥)



ここは「まちの駅 新・鹿沼宿」。旬の農産物をはじめ、「かぬまブランド」として認定された特産品がいっぱい。名物のにらそば、そば茶アイスもどうぞ。さらに日本一のきれいを目指す「心やすらぎ処(トイレ)」にもご注目! (MAPの⑦)

展示しています(12/23まで)。「ひと休みしたい」「観光情報を知りたい」という要望に応えてくれるのが全国に広がる「まちの駅」ですが、鹿沼市では92力所の店や施設がまちの駅に認定されています。その代表が「まちの駅 新・鹿沼宿」。ここには鹿沼の農産物や特産品が勢揃いし、食事や喫茶もできます。また、散策に便利なレンタサイクルも用意されています。

その近くにある「鹿沼市木のふるさと伝統工芸館」も必見。彫刻屋台の収納庫を兼ねた館内には、鹿沼の伝統工芸のすべてが紹介・展示されています。とりわけ書院障子や欄間などに見られる組子細工は、鹿沼の建具技術の頂点。繊細で多様な模様の息を呑む美しさにきっと感動します。

豪華絢爛な彫刻屋台と組子細工の美しさ

この祭りの様子をいつでも見られるのが、屋台のまち中央公園。展示館には江戸期作の彫刻屋台3台が展示されていて、豪壮でかつ緻密な彫刻の技をつぶさに観察できます。そのそばには大画面のマルチスクリーンを設置。迫力の祭りを上映しています。また、公園の敷地の半分を占めるのは、かつて川上澄生も訪れた掬翠園。明治から大正にかけて造園され、当時「鹿沼三庭園」と呼ばれた中で唯一復元された庭園です。

街中を歩いていると、またもや深岩石造りの大きな蔵を発見。大正9年建造の蔵はいまも現役で、その一区画に「アカリチョコレート」が出店しています。店内にはギャラリーも併設されていて、川上澄生美術館のリトル・クリスマス展「版画街角展示」に協力。注目されている2作家の作品を



新鹿沼データファイル

〈鹿沼市立川上澄生美術館〉・・・●交通=新鹿沼駅徒歩30分 ●開館時間=9:00～17:00 (入館は16:30まで) ●休館日=月曜 (祝日の場合、翌日)、年末年始 (12/24～1/4) ●入館料=一般300円/高校・大学生200円/小・中学生100円 *12/23 (月・祝) まで『山の版画家 畦地梅太郎と木版画家の詩人 川上澄生』開催中。同じく12/23 (月・祝) まで『リトル・クリスマス展』を1階展示ホール (入場無料) で開催中。新進気鋭の版画家45人がクリスマスの世界を表現。 ☎0289-62-8272

〈鹿沼市文化活動交流館〉・・・●交通=新鹿沼駅徒歩30分 ●開館時間=8:30～21:00 (郷土資料展示室は9:00～17:00) ●休館日=月曜、祝日等の翌日、年末年始 (12/29～1/3) ●入館料=無料 *創作工房室、ギャラリーの貸し出しは有料。 ☎0289-60-7890

〈屋台のまち中央公園〉・・・●交通=新鹿沼駅徒歩20分 ●開園時間=9:00～17:00 (屋台展示館の入館は16:30まで) ●休園日=月曜 (祝日を除く)、祝日の翌日、年末年始 (12/28～1/4) ●屋台展示館入館料=一般200円/高校・大学生150円/小学・中学生100円 ☎0289-60-6070

〈まちの駅 新・鹿沼宿〉・・・●交通=新鹿沼駅徒歩10分 ●営業時間=9:00～19:00 ●休館日=無休 *ただし、1/1・1/2は案内処のみ営業 ☎0289-60-2507

〈鹿沼市木のふるさと伝統工芸館〉・・・●交通=新鹿沼駅徒歩8分 ●開館時間=9:00～17:00 ●休館日=月曜、祝日の翌日、年末年始 (12/27～1/4) ●入館料=無料 *「鹿沼の組子体験」(木片を組んでコースターを作ります) を随時受付。15名以上の団体は要予約 (材料費は実費負担) ☎0289-64-6131

〈Canal de Panama (カナル デ パナマ)〉・・・●交通=新鹿沼駅徒歩15分 ●営業時間=11:30～18:00 (L.O.17:30) ●定休日=水曜、第1・第3火曜 *年末年始の営業日はお電話でご確認ください。*ランチは3種類 (1000円～1300円程度) *メニューはおおよそ週替わりで変更。 ☎0289-74-5663

〈ACARIE CHOCOLAT (アカリチョコレート)〉・・・●交通=新鹿沼駅徒歩15分 ●営業時間=11:00～18:00 ●定休日=水曜、第1・第3火曜 *12/31まで営業、年始は1/3～ *「大谷の石畳」は1150円 ☎0289-63-5078